

# 令和元年度徳島県田園環境検討委員会

## I 日 時

令和2年3月17日（火）午後3時から午後4時50分

## II 場 所

・委員会 徳島県庁10階 大会議室

## III 出席者

【委員】井筒伸二，井藤大樹，大平千鶴子，川瀬益栄，上月康則，後藤月江，谷野圭助  
西岡さち子，森紗綾香，山城 考（アイウエオ順敬称略，10名中10名出席）

【 県 】 農林水産基盤整備局長，農山漁村振興課長，生産基盤課長他

## IV 委員会次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

（1）農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について

（2）農業農村整備事業の環境配慮実績について

4 閉 会

## <配付資料>

- ・会議次第
- ・配席図
- ・徳島県田園環境検討委員会等設置要綱
- ・徳島県田園環境検討委員会委員名簿
- ・審議地区の環境との調和への配慮取組み
- ・環境配慮実績報告書

## V 会議録（要旨）

### 1 開 会

2 開会の挨拶 農林水産基盤整備局長

3 委員長、副委員長選任

### 4 議 事

#### (1) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について

##### ①経営体育成基盤整備事業 長生中央地区

###### 【委員】

希少種植物、水生動物に配慮し土水路や石積みの水路を残すとのことだが、地元農家は納得しているのか。また、現況を残すなどの環境配慮する水路の範囲はどの程度か。

###### 【県】

一部区間については了解済み。その他の水路についても、今後、専門家及び地元農家と相談しながら路線や区間を選定していくので、現時点定まった延長はない。

###### 【委員】

水路内に通年水が溜まる工夫について、どのように考えているか。

###### 【県】

冬期の水たまりの確保のための深みの創設など専門家に相談する。

###### 【委員】

排水路底版部の構造を石張りとする事でオグラコウホネやクロモは定着するのか。繁殖して次の世代が残るのか。

###### 【県】

近隣地区での個体移植の実施事例はあるが、順調に定着するか継続してモニタリング中。

###### 【委員】

採取した種子を水槽で育苗し、状況の観察を通じて現場に活かすことも考えられる。

###### 【県】

専門家の意見を聞きながら進める。

###### 【委員】

水田に飛来する鳥類への影響緩和について対策するのか。

###### 【県】

鳥類調査は実施しておらず特段の対策は考えていないが、通常工事は営農にも配慮し、水稻の収穫から代掻きまでのため、作付け期間の水田の状態は確保できると考える。

###### 【委員】

水路のコンクリート3面張りは、生物に悪影響を及ぼすか(コンクリートでも魚は生息)。

###### 【県】

待避、産卵などの場所として、一定区間は土水路等が望ましい。維持管理と生物保全のバランスを勘案し、農家、専門家の意見を踏まえコンクリートの区間を定める。

###### 【委員】

農家は水路は水を流す施設と考え、そこに棲む生き物に着目しないのが現状。

###### 【委員】

生物への影響として、暗いところを好む種が棲めなくなること、降雨により堆積物が流されること、川虫が定着しないのでこれを捕食する種が棲めなくなること、湧水がなくなり水温上昇の抑制や水質浄化の機能が低下すること、などが挙げられる。一方、全区間の配慮は必要なく、部分的な配慮箇所をうまくネットワーク化すれば、その間のコンクリート水路でも生物は生息する。

②老朽ため池等整備事業 第一金清地区

③老朽ため池等整備事業 オソノ池地区

**【委員】**

両池とも堤体外側の法面保護を芝としているが、植生が低く、人工的となる。草刈りの手間が増えるかもしれないが、チガヤなど30～40cmの草丈の植生を入れられないか。コカモメヅルも半日陰を好む。

**【県】**

維持管理面も勘案し、ため池管理者と相談の上、専門家の意見を聞きながら進める。

**【委員】**

植物、魚類を一旦避難し、工事後に戻す計画だが、工事直後は生育環境が整っていないと考える。戻す時期はどのように考えているか。

**【県】**

専門家の意見を聞きながら進める。

**【委員】**

植物、魚類の一時避難場所に耕作放棄地を活用してはどうか。

**【県】**

現場の状況や保全対象の性質（定期的に草刈りが必要な種など）を勘案し、専門家に相談しながら進める。

**【委員】**

オソノ池は山際にあり、両生類の産卵場所となっている可能性がある。同様のため池は近くにあるか。

**【県】**

ため池は複数存在する。両生類の調査は行う予定はない。

**(2) 農業農村整備事業の環境配慮実績について**

**【委員】**

報告書作成日以降の生育状況はどうなっているか。

**【県】**

今は時期的に早いため、生育を確認できなかった。モニタリングは継続する。

**【委員】**

モニタリングは事業工期内に限るのか。

**【県】**

完了後も実施し、効果を検証したい。成功事例、失敗事例の蓄積が重要と考える。

**【委員】**

事例のとりまとめは学術的にも意味があり、県民に周知することで取り組みを理解いただけるかもしれない。よろしく願います。

**【委員】**

部局間で連携し、地域や学校を巻き込んだ環境教育、啓発を実施してはどうか。この委員会で議論していることは非常によいので、もっとPRすべき。

**【県】**

既に小学校と連携した取り組みは実施しているが、今後は部局間で連携に取り組む。また、可能であれば、ため池工事での魚類移設の際に小学校、地域住民を巻き込んだイベント開催にもチャレンジしたい。